

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院だより

Marianna Network

# いこいの森

No.2

〒241-0811 横浜市旭区矢指町1197-1 電話 045-366-1111



加藤達夫 副院長

近頃毎日のように新聞・マスコミには医療ミス、輸血に関する問題、医療事故などが取り上げられ、私たち医療関係者の信頼は失墜されている感があります。私たちは今、襟を正して、医療に対する倫理観、使命感をさらに一層高める時が来ていると考えます。「いい病院」への关心は雑誌が特集記事を組んだり、本が出版される等、年々高まっています。2003年9月29日の朝日新聞の夕刊によると、1都6県の20歳以上の300人に「病院で最もアタマにきたことは?」というアンケート調査に対し1. 長く待たされた109人 2. 医者らの態度の悪さ109人 3. 内容の割に料金が高かった28人 4. 複数病院のたらいまわし5人 5. 院内の雰囲気が悪かった1人という結果が出ております。私達の病院でも「声」という投書箱を備え来院された方々のご意見を伺っておりますが、多くの声は新聞のアンケートに近い内容です。今後も反省の糧にしていかなくてはなりません。

これらにも関連しますが私たちの病院は2003年12月に病院機能評価を受審することになっております。これは財団法人日本医療機能評価機構という全くの第3者機関に、私たちの病院の機能を評価してもらうことです。この目的は私たちの病院が地域医療を担う体制や機能について、客観的に評価を受けることを意味します。この際もっとも大切なことは、問題があると思われることに対して私たちが自主的に改善活動を捉えることあります。そしてこの受審は第3者から高い評価を受けることが目的ではなく、問題があると評価されることに対してこれを真摯に受け止め、改善に向け努力することが私たちの使命であると考えます。

今、医療はめざましく進歩しつつあります。私たちはこの変化に遅れをとることの無いよう、質の高い、安全な医療提供するよう心がけなくてはならないと痛感いたしております。

## 患者さま満足度アンケート

過日、実施致しました「患者さま満足度アンケート」に、762件の回答を頂きました。

現在、集計作業を行っております。結果につきましては、院内掲示および当誌に掲載させて頂きます。

ご協力ありがとうございました。



# ◆ 神 経 内 科 ◆

「神経内科はどんな病気を専門に診る科なの？」

あるいは

「神経内科の病気は難しくてよく分からない」

といった声をよく聞きます。実際に特定疾患（いわゆる難病）に含まれる病気の多くは神経内科が専門の病気です。神経内科に受診すべき代表的な病気を紹介します。

## ■ [急に起こる神経内科の病気]

- 朝起きたら片側の手足が動かない、呂律が回らなくなってしまった

このような症状で起こる病気は脳梗塞あるいは脳出血という脳血管障害の可能性があります。高血圧症、高脂血症、糖尿病がある人に起こりやすい病気です。可能な限り早く受診して下さい。これらの病気の中には手術が必要な場合があります。手術が必要な場合には脳神経外科が専門となります。

- 1週間前に風邪をひいて、昨日から両足に力がはいらざ物が二重に見える

ギランバレー症候群という病気の可能性があります。以前は呼吸ができなくなり人工呼吸器を装着しなければならない重症例がありましたが、早期に診断し、大量ガンマグロブリン療法あるいは血液浄化療法という治療が可能となっていました。

- 時々視力が低下し、手足がシビレ、動きにくい

20～40歳の人に好発する多発性硬化症という病気の可能性があります。診断するのが難しい病気で、特定疾患に含まれます。手足の運動障害や感覺障害、視力障害が繰り返し起こる病気です。再発した場合にはすぐにステロイド療法を行います。再発予防のためにインターフェロン療法があります。診断が確実となったら特定疾患の申請が可能です。

- 片方のまぶたが下がる、夕方になるとだるくなる、手足の力がはいらなくなる

重症筋無力症という病気の可能性があります。テンション試験、特殊な筋電図、血中抗アセチルリンレセプター抗体の検出により診断します。大量ステロイド療法と胸腺摘出療法を組み合わせて治療します。診断が確実となったら特定疾患の申請が可能です。

- 頭痛を伴う風邪症状の後につじつまの合わないことを言う、さらに痙攣をおこした

単純ヘルペスI型というウイルスによるヘルペス脳炎の可能性があります。早期に診断し治療しないと、重い後遺症を残すことがあります。また死亡する可能性のある病気です。この病気が疑われたら直ちにアシクロビルという抗ウイルス薬を点滴します。

## ■ [徐々に起こる神経内科の病気]

- 手紙の字が小さくなり書きにくい、手が震える、歩幅が小さく転びやすい

パーキンソン病という病気の可能性があります。年賀状を書くときや結婚式の署名で気付いて病院を訪れることが多い病気です。いわゆる“さじかけん”により症状が左右され、治療において神経内科の専門的知識が最も要求される病気です。また、パーキンソン病と似た症状を起こす他の病気が多くあり、鑑別診断が重要です。診断が確実となったら特定疾患の申請が可能です。

- お酒を飲んでいないのに酔っぱらった時の話しおと歩き方になった

脊髄小脳変性症という病気の可能性があります。脊髄小脳変性症の中に多くの種類があり、そのタイプを診断することが重要です。病気の進行を抑制する内服薬や定期的なTRHという点滴による治療が可能です。診断が確実となったら特定疾患の申請が可能です。

- 手の筋肉が痩せ細り、力がはいらない、呂律が回らない、食べ物が飲み込みにくい

運動ニューロン疾患という病気の可能性があります。診断が難しく、以前は治療法がありませんでしたが、最近では病気の進行を抑制する内服薬により治療しています。やはり、特定疾患に含まれる病気です。また、この病気と鑑別が難しい慢性炎症性脱髓性多発根神経炎あるいは多発性運動ニューロパシーという病気があります。これらの病気は大量ガンマグロブリン療法や血液浄化療法により筋力を回復することができます。

## ◆神経内科を受診する患者さまとご家族へ◆

上記に紹介した病気の他にも神経内科領域の病気は多数あります。神経内科は最も病気の種類が多い分野といわれています。神経内科の病気は経過の情報が重要です。かかりつけのホームドクターからの診療情報提供書があると診断の手掛かりとなります。

## 保険証提出のお願い

毎月、月初めの来院日に、診療後の会計5番受付で保険証を確認します。

保険証が確認できない場合、自費扱いとなることがありますのでご注意下さい。

尚、保険証の内容や住所、電話番号などに変更がある場合は、再来受付後、診療前に、初診受付2番で、手続きをして下さい。

10月1日より国民健康保険被保険者証が更新されました。来院の際には新しい被保険者証（新証）をご持参下さい。

平成15年10月25日発行

発行：聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院総合相談部 〒241-0811 横浜市旭区矢指町1197-1 TEL:045-366-1111

企画・制作：株式会社 教育広報社 〒102-0075 東京都千代田区三番町30番地2 財団法人 大蔵財務協会ビル TEL:03-3263-9926